



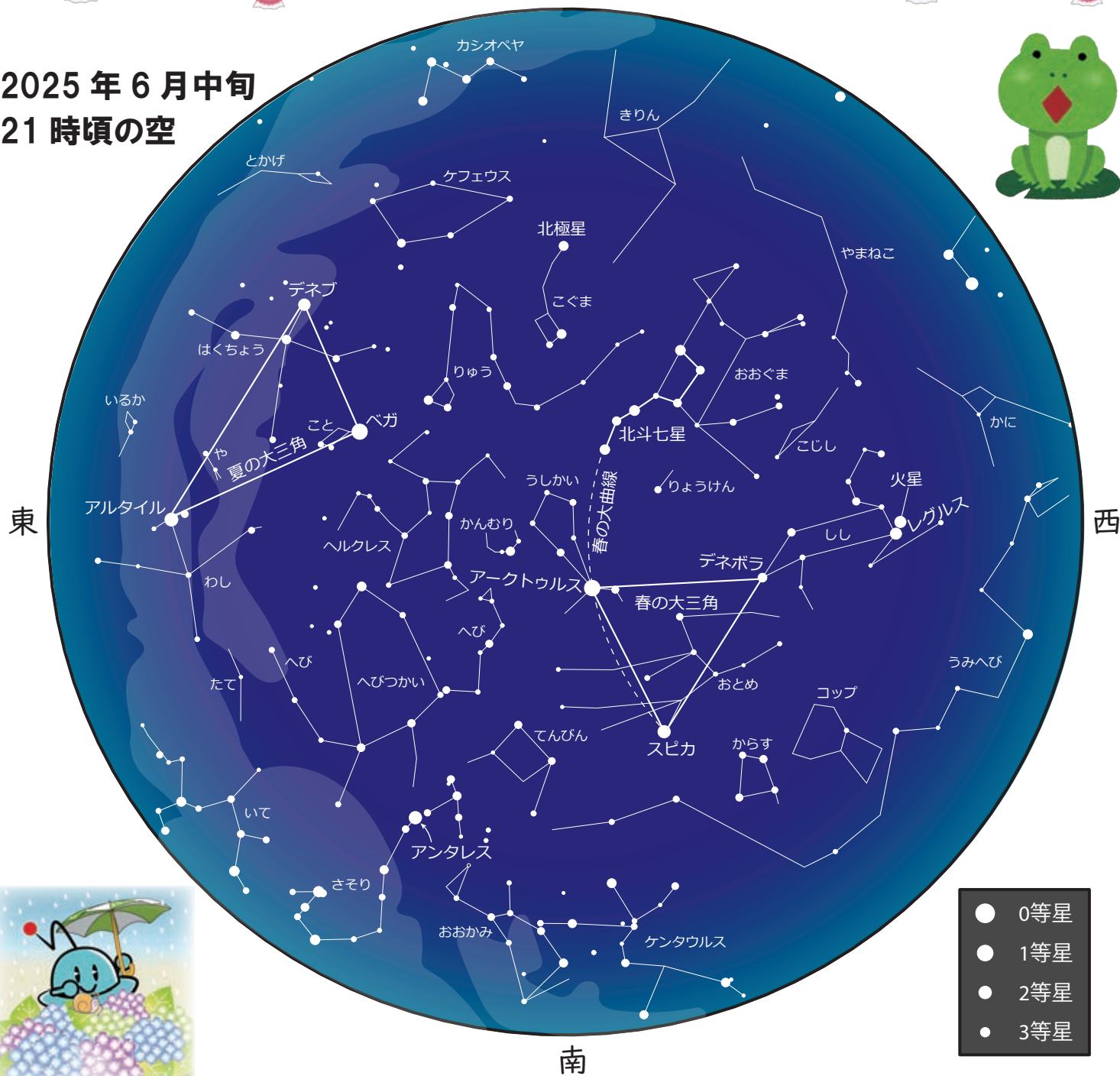
6月の星空案内



北



2025年6月中旬
21時頃の空

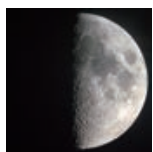


梅雨の時期がやってきまして、雨で星が見られる日が少ないかもしれない6月。南の空にはオレンジ色をしたうしかい座の一等星アークトゥルス（約0.0等）が輝いています。アークトゥルスを探すまでに見えた青白い星はおとめ座の一等星スピカ（約1.0等）です。アークトゥルスに目線を戻して少し西に目を動かすと、しし座の二等星、デネボラ（約2.1等）を見つけることができます。この3つの星々をつながてできるのが春の大三角です。この時期からは遅い時間に東の空から夏の星座や一等星たちのぼり始めてきます。南の低空にはさそり座の赤い一等星アンタレス（約1.0等）が見え、アンタレス付近から北の空にかけて光の帯を見つけることができます。これが天の川です。周りが暗い所でぜひ探してみてください。

天体観望会のご予約はネットかお電話にて【毎週土曜日開催！】

阿南市科学センター 電話 0884-42-1600 <https://ananscience.jp/science/>

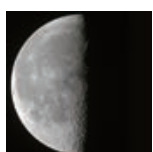
6月の月の満ち欠けと惑星について



上弦
3日



満月
11日



下弦
19日



新月
25日

6月の天体観望会で月が見える日時は？



6/7(土)・・・20時、21時がおすすめ



水星：日没後西のごく低空で見える。【-0.7等】

金星：6月1日に西方最大離角をむかえ、夜明け前に東の空で明るく輝く（明けの明星）。【-4.2等】

火星：前半夜に西の空で見える【約1.4等】

木星：太陽に近く、見る事ができない。

土星：夜半過ぎ、東の空から昇ってくる。【約1.0等】

※各惑星の等級は中旬頃の明るさ。



深夜になると天の川がとてもきれいに
見えるようになるよ！周りが暗くて
月の出ていない日に観察してみてね！

おすすめの観察対象

【金星が西方最大離角をむかえる】

金星は現在、明け方の東の空に「明けの明星」として見つけることができます。金星が西方最大離角となるのは6月1日で、その明るさはなんと-4.3等級と大変明るく、誰でもカンタンに見つけることができます。

金星は月のように満ち欠けを起こし、西方最大離角の時は月でいうところの半月にあたります（図1）。月と同じように図2のような位置関係になることで太陽の光の当たり方から満ち欠けが発生します。

金星は真夜中には観察できず、明け方や夕方にしか観察できません。また、金星は太陽の周りを約225日で一周するので夕方に見えて次の日は明け方、のような動きはせず、一定の期間は明けの明星として見え、その逆も然りとなっています。

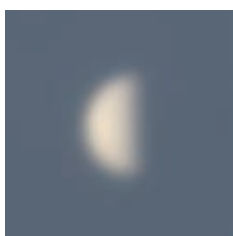


図1 113cm 望遠鏡で撮影した
西方最大離角の金星
(撮影：2022年3月20日)

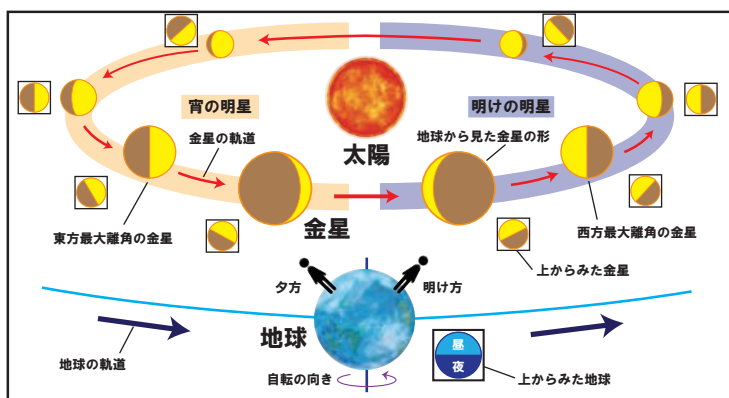


図2 金星と太陽の位置関係と地球からみた金星の形

チャレンジ観察

【ケンタウルス座のオメガ星団】

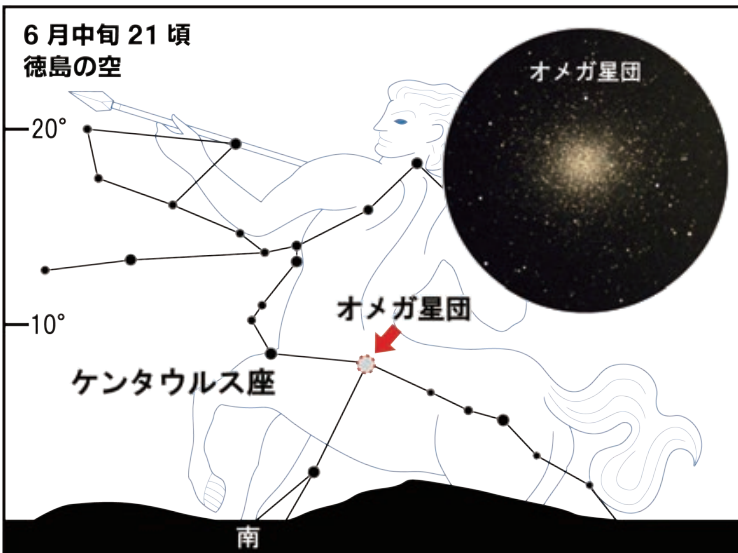


図3 オメガ星団の位置（6月中旬21頃）。写真は阿南市内で撮影。

初夏の時期、南の低空にはケンタウルス座という星座が昇っています。この星座には「オメガ星団」という星の集まりを見つけることができます。この天体は「球状星団」という老いた星の集まりに分類され、この種の天体としては全天一の大きさをほこります。肉眼では恒星のように見えたことから、本来恒星に与えられる符号（ギリシャ文字“ ω ”）が割り当てられています。なお日本では多くの地域で低空に見えるため、大気の影響を強く受けて本来の明るさよりも暗くみえることが多いです。梅雨の中休みなど、低空まで透明度の良い日を狙えば、双眼鏡でその存在を確かめることができます。自分で探すのが難しい場合は、最近流行のスマート望遠鏡を使ってテレビ観望をするのも良いでしょう。